

さいたま市地域交通共創人材・コーディネーター育成事業

# 第3回ワークショップについて データを活用した地域課題解決の在り方

令和5年12月27日（水）

場所：浦和コミュニティセンター15集会室

さいたま市スマートシティ推進コンソーシアム

## 3回目ワークショップの予定

- |          |  |                    |
|----------|--|--------------------|
| <b>1</b> | <b>本事業および第3回WSについて</b>                   | <b>13:00~13:05</b> |
| <b>2</b> | <b>講師のご紹介</b>                            |                    |
| <b>3</b> | <b>前回の振り返り、役割分担の確認、<br/>本日の取り組み内容の整理</b> | <b>13:05~13:30</b> |
| <b>4</b> | <b>対策案として建てた仮説の裏付け・ブラッシュアップ</b>          | <b>13:30~15:30</b> |
| <b>5</b> | <b>これまでの成果を資料に整理</b>                     | <b>15:30~16:00</b> |
| <b>6</b> | <b>各グループの発表、次回以降に向けて（総評、連絡）</b>          | <b>16:00~16:30</b> |

※休憩は各自で適宜取得してください

## 講師のご紹介

# データ利活用による地域課題解決に活躍される講師 (※敬称略)

### 講師

株式会社国際経済研究所  
非常勤フェロー・JCoMaaS 理事

**宮代 陽之**

みやだい はるゆき



### プロフィール

- モビリティと都市・社会の関係とその変化に注目し、内外動向調査・分析に従事
- 現在はMaaSやスマートシティの日本での実装・実践に関する課題や機会について取り組む

### 講師

東京都立大学  
教授

**相原 健郎**

あいはら けんろう



### プロフィール

- 情報学的観点からの行動把握、行動変容に関する認知モデル、方法論、および、システムに関する研究に取り組む
- また、文化・芸術における知の共有などに関する研究にも従事

## 3回目のサマリ

前回構築した対策案の仮説を、データ分析等を通じて改善・ブラッシュアップを行い、全員での成果共有を目的とした発表という流れで進行する予定

13:05~13:30

役割分担を再確認しながら2回目のまとめを振り返り、今日の分析・検証で確認する内容の整理とQGIS等の準備を行う。

13:30~15:30

立てた仮説を裏付ける前提でデータを分析し、より筋の良い仮説となるようにブラッシュアップをかける。  
※分析アプローチも同時に学ぶ

15:30~16:00

これまでのワーク結果を資料として整理することで、目的達成、課題解決の点で仮説の妥当性があるかどうかを確認する。  
4回目に向けて、不足・改善・改良のポイントについて考察する。

16:00~16:30

作成資料を使って各Gから発表

- 資料を使った成果発表
- 次回のワーク計画
- クロージング（総評、閉会）



• 分析による達成目標・目的を明確化

• 解決課題を特定

• 課題要因を推測、仮説を立案

• 仮説実証のための適切なデータを収集

• 収集データを分析、可視化

• 「①目的」～「⑤分析」までの流れを検証

## 前回の振り返りと今回のワークの流れ

# 前回、各グループで検討した対策案を元に裏付けやブラッシュアップをかける

### グループ1

<課題> 埼玉スタジアムの試合日

- 美園駅周辺の混雑緩和と定時性確保

<仮説>

新規路線として浦和線にも需要あり

<2回目の分析・検証結果>

浦和駅利用が想定される居住地の人の動きを分析。武蔵野線の利用は3割程度で、それ以外は自家用車による移動と推定された。また、スタジアムに15時着が多く、13・4時頃から移動開始していると想定された。

<対策としての仮説>

- ① 463号線手前まで自家用車、そこからピストン輸送により渋滞解消可能。イオンとの連携で効果UP
- ② 鷲山公園の駐車場をパークアンドライドの拠点として活用可能では？

<3回目以降のワークでの深堀>

- ▶ マイカー利用者のバス利用の潜在需要は？
- ▶ 試合相手や結果によって経路需要が変わる可能性は？
- ▶ どこで消費活動をしているか？ 買い物は？

### グループ2

<課題> 大宮スタジアムの試合日

- 周辺の渋滞緩和と寄り道消費UP

<仮説>

試合終了後、大宮駅利用者の滞在時間が長く消費が多い

<2回目の分析・検証結果>

スタジアム着の人の移動軌跡を可視化、居住地の割合を分析。仙台戦・水戸戦の鉄道利用のギャップ。

<対策としての仮説>

- ① ウォークブル環境を活かした歩行者向けの施策、マイカーから歩行へのモーダルシフト
- ② パークアンドライド等のアクセスポイントの整備、グリスロとの共存

<3回目以降のワークでの深堀>

- ▶ スタジアムの利用状況→大宮区役所へ確認
- ▶ 点群データで滞在時間を調査
- ▶ 仙台サポーターの終了後滞在時間
- ▶ 年齢層など属性で分布調査
- ▶ 道路の混雑状況
- ▶ 年代別の消費動向の調査

### グループ3

<課題> 新都心スーパーアリーナでのイベント日

- 周辺エリアの消費活性化

<仮説>

イベント終了後、周辺に滞留せず帰ってしまう

<2回目の分析・検証結果>

5/13のイベント終了時、市民を除く人の18-20時の2時間の滞留箇所の特定。20~30代は滞留しない。75%は周辺エリア外に移動。50代以上は周辺に留まる傾向。

<対策としての仮説>

- ① キッチンカーの配置、周辺エリアでイベント開催した有名人等の関連コンテンツ配信
- ② 大宮駅等の近隣駅での消費を活性化シェアモビ等の利用促進、宿泊者対策

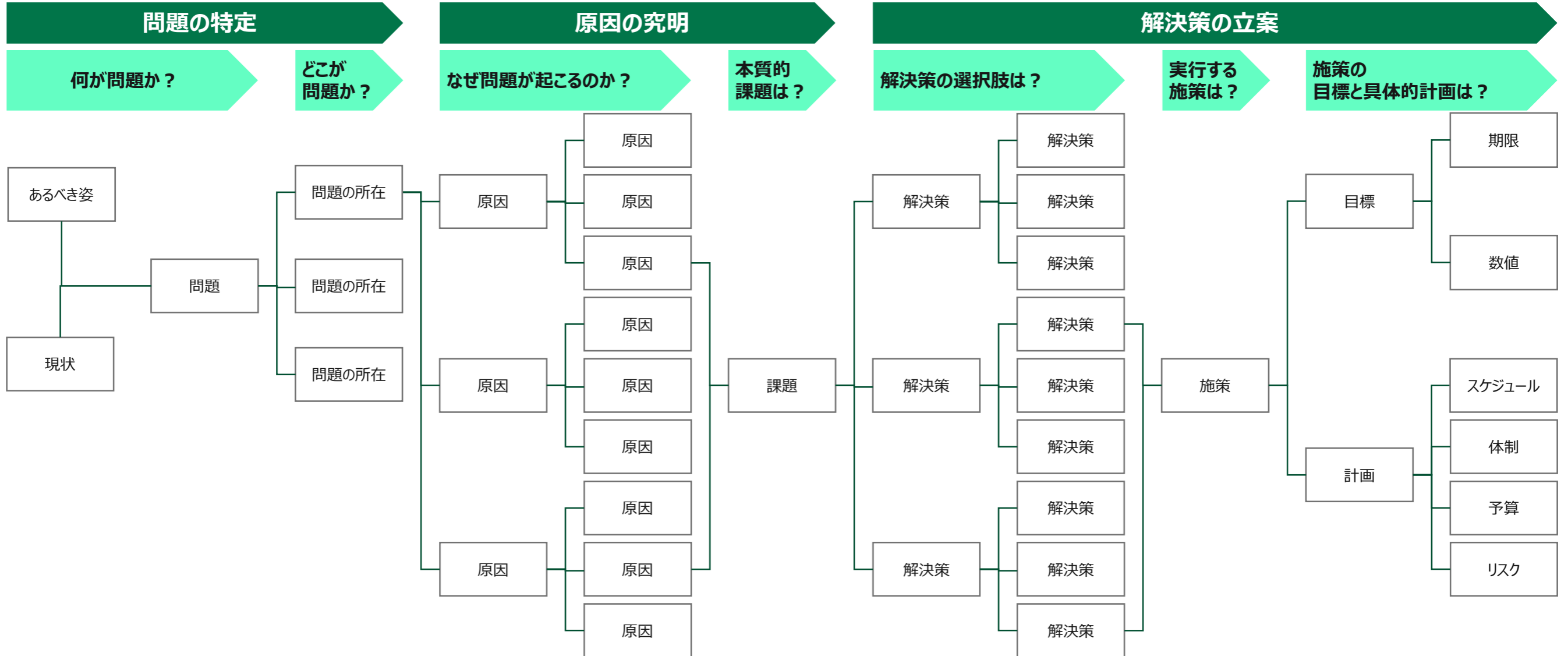
<3回目以降のワークでの深堀>

- ▶ 他のイベント日でも年代別に同様の傾向があるか？を確認
- ▶ 対策の有効性の検証や具体化

# ワークの流れについて

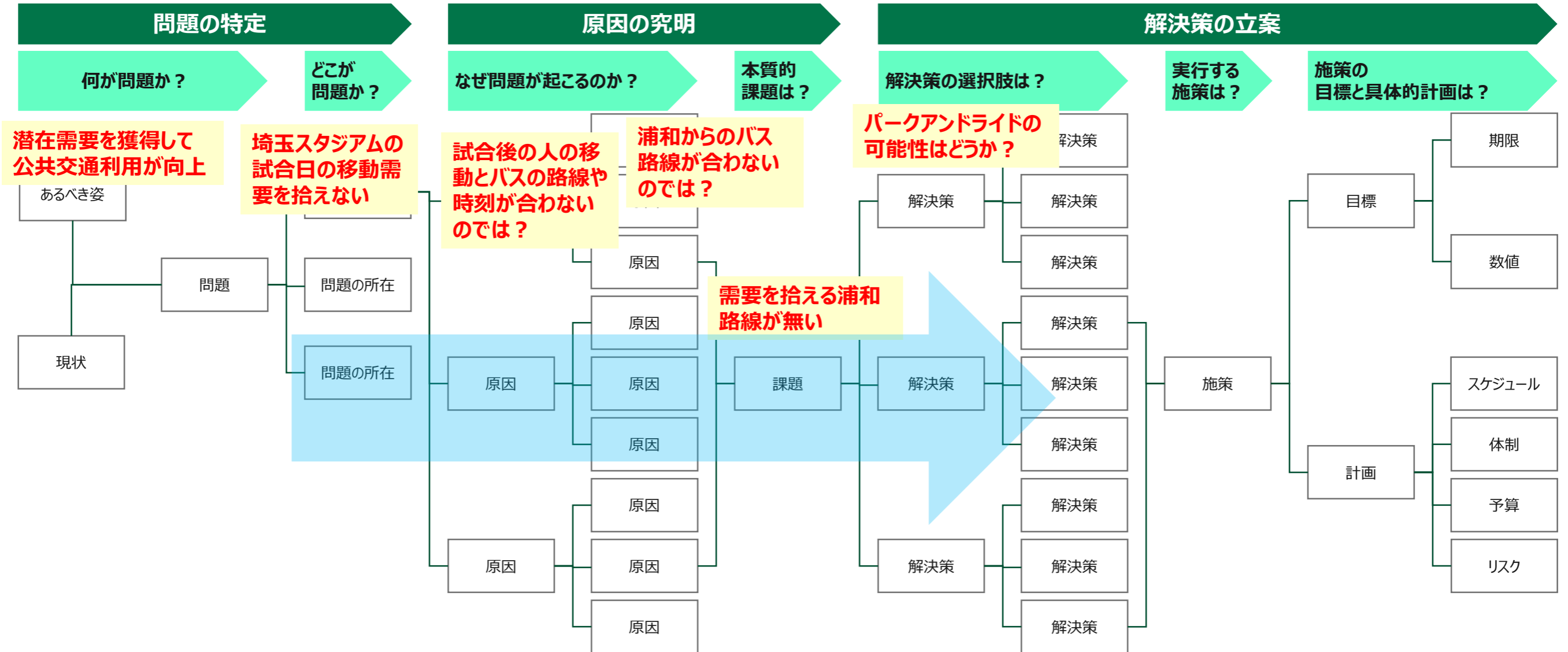
# 問題解決アプローチについて

問題解決のアプローチを用いて考察内容を整理しながらこれまでのワークを振り返りましょう



# グループ1の場合

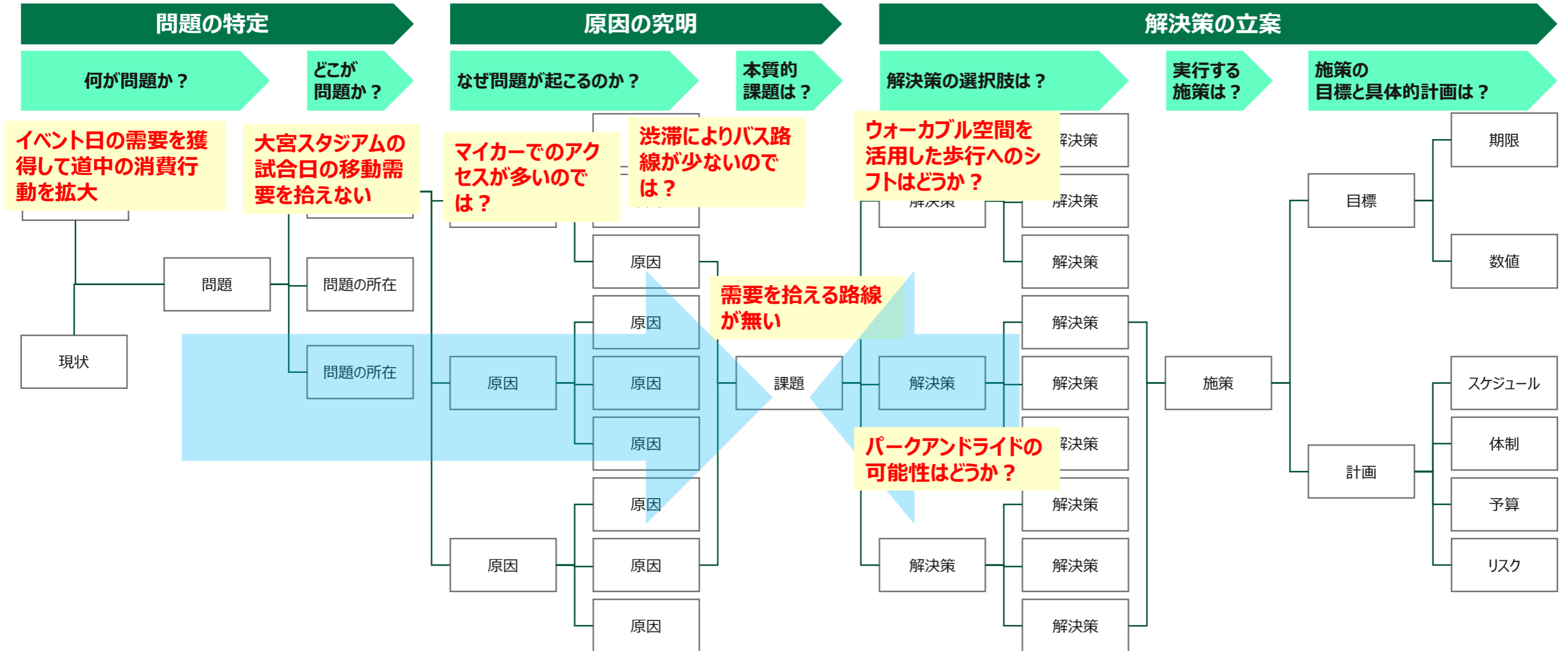
埼玉スタジアムでの試合日に潜在的な公共交通需要があるのでは？という観点から  
マクロ視点で移動実態の全体像を見つめながら浦和からの移動需要に焦点を絞っている





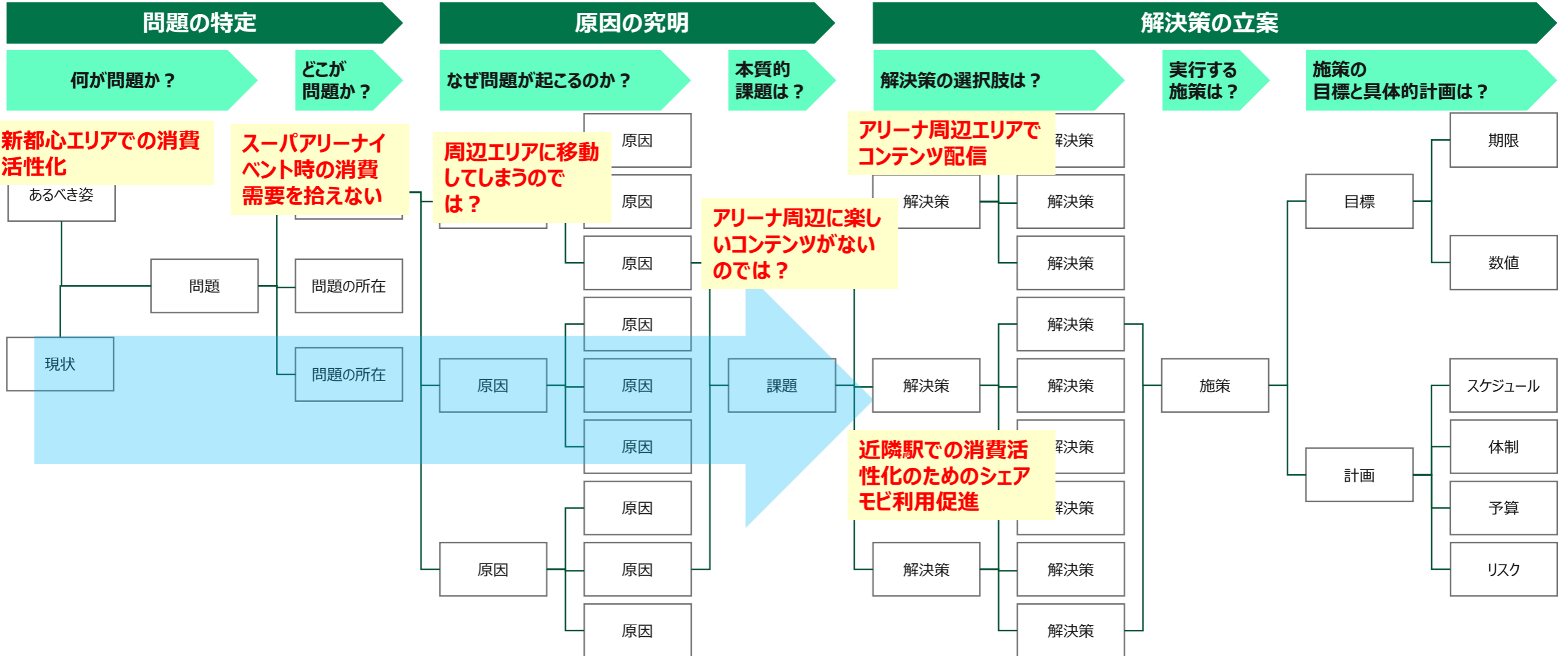
## グループ2の場合

大宮スタジアムでの試合日に潜在的な公共交通や消費需要があるのでは？という観点からマクロ視点で移動実態の全体像を見つめながら、ミクロ視点の解説策とのつながりを考えている



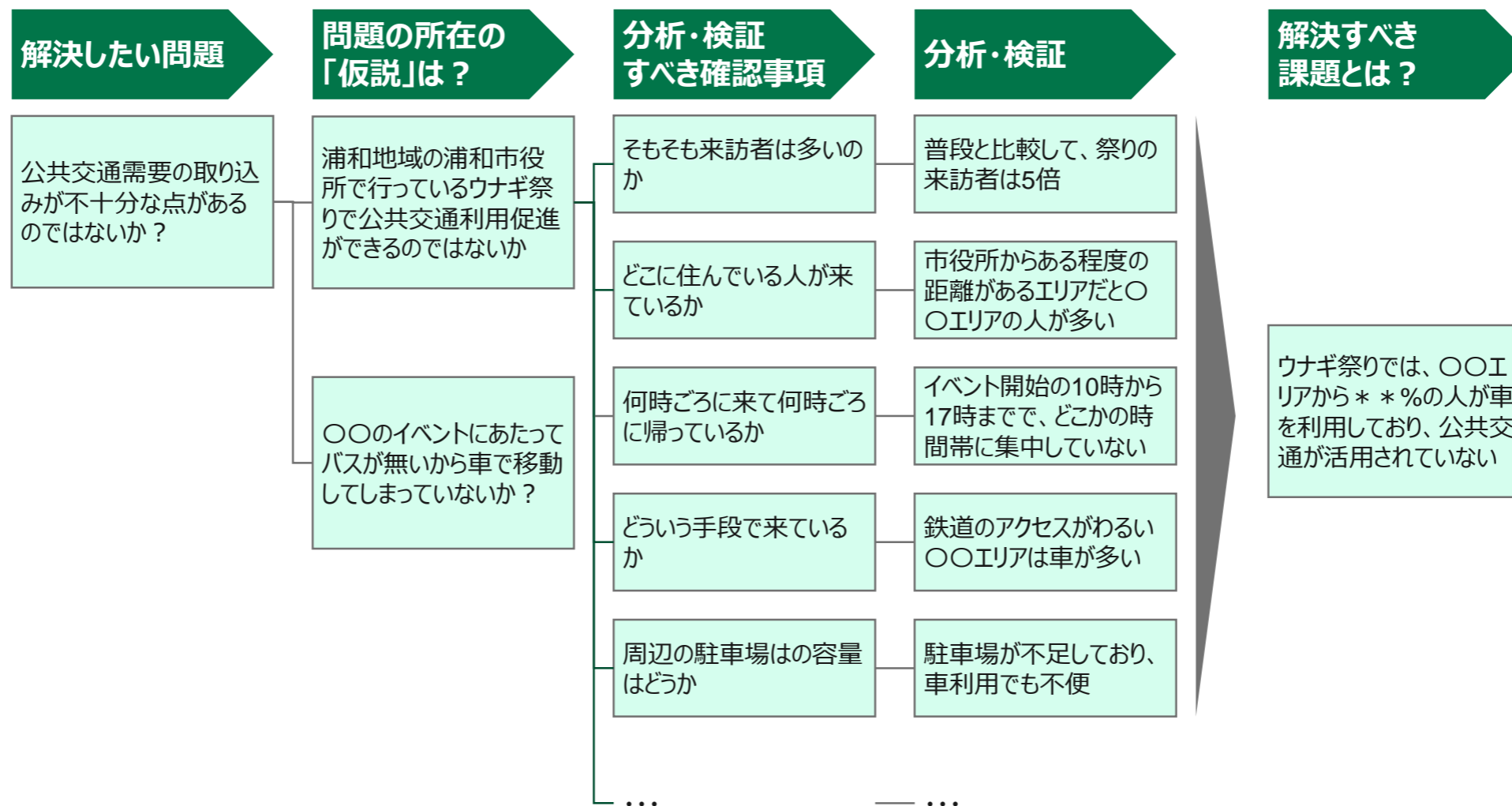
## グループ3の場合

スーパーアリーナイベント時に潜在的な消費需要があるのでは？という観点から  
ミクロ視点でイベント時消費行動の問題をとらえつ、マクロ視点で移動実態を見ている



## 問題～解決すべき課題の導出

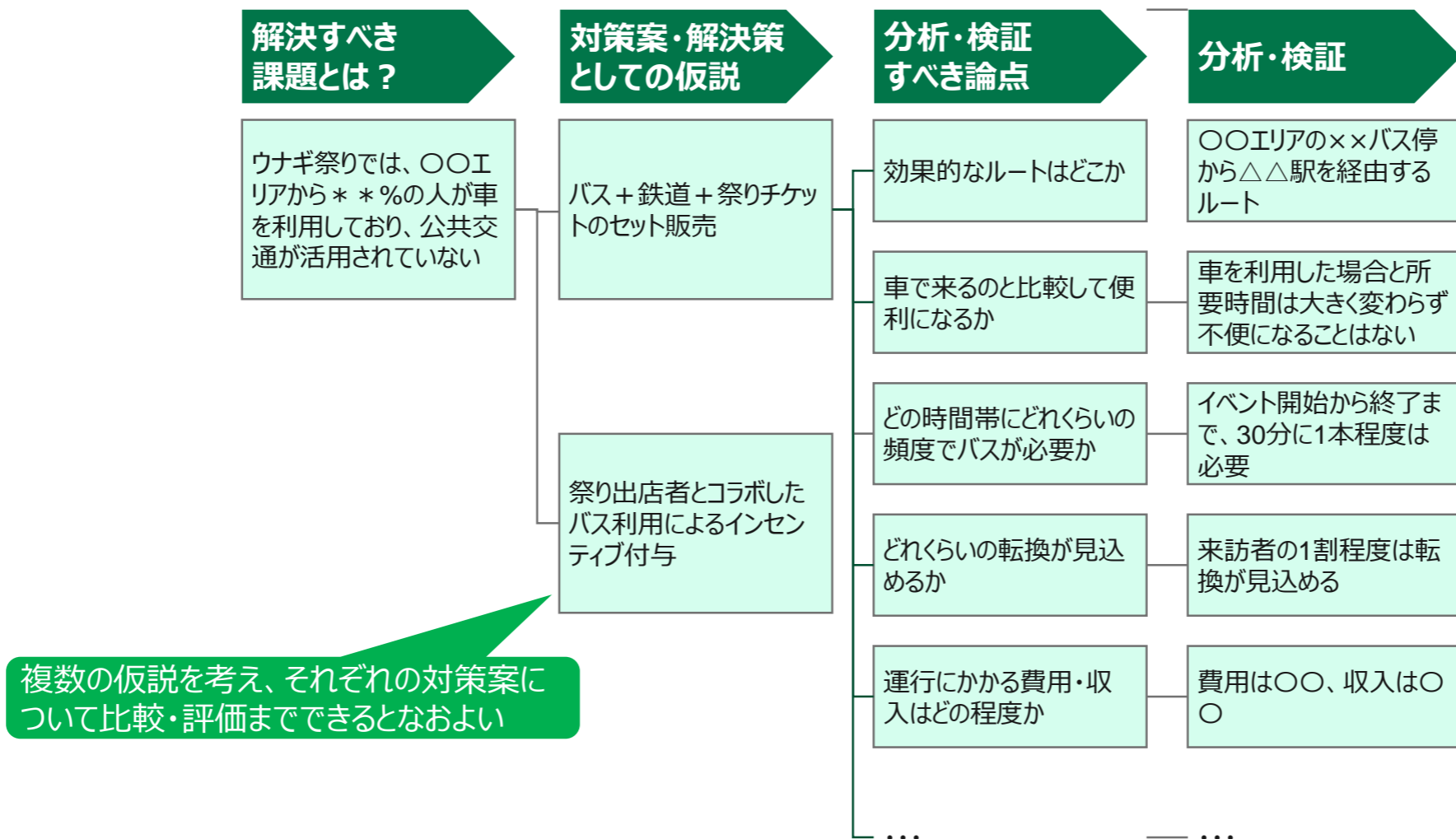
# 解決すべき課題を具体化するために実施した分析を振り返ってみてください



※記載内容はイメージであり、  
実際の結果ではない

## 解決すべき課題～解決策の具体化

# 解決すべき課題の解決策を検討する段階の分析を振り返ってください



# 3、4回目で作成いただく 成果物用テンプレート

※4回目に発表いただくもの

## ビジネスモデルキャンバス

# 対策案をビジネスモデルキャンバスのフレームワークに整理しながら ブラッシュアップをかけてください（※付箋を使います）

<b>主なパートナー</b>  どのようなパートナーと協業できるか	<b>主な活動</b>  どんなタスクが必要か	<b>価値提案</b>  どんな価値を届けるか	<b>顧客との関係</b>  どのように顧客と関係を築くか	<b>顧客セグメント</b>  誰に価値を届けるのか
	<b>主なリソース</b>  必要なリソースはどれくらいか		<b>チャネル</b>  どのような経路で届けるか	
<b>コスト構造</b>  どのようなコストが発生するか			<b>収益の流れ</b>  どのような仕組みで収益を生むか	

## ビジネスモデルキャンバス

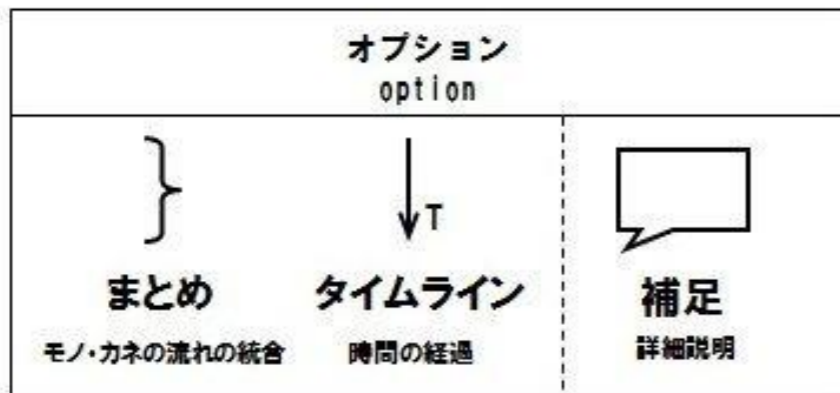
# ビジネスモデルキャンバスでの考察のポイント

<p><b>主なパートナー</b> どのようなパートナーと協業できるか</p>	<p><b>他のグループと相互に共通する点と相違する点を考えてみる。</b> <b>連携・協調で相乗効果につながらないか？</b></p>	<p><b>他のグループと相互に共通する点と相違する点を考えてみる。</b> <b>連携・協調で相乗効果につながらないか？</b></p>	<p><b>他のグループと相互に共通する点と相違する点を考えてみる。</b> <b>連携・協調で相乗効果につながらないか？</b></p>	<p><b>顧客セグメント</b> 誰に価値を届けるのか</p>
<p><b>誰と何を何のためにどう組むか？ どんなシナジーが生まれそうか？</b></p>		<p><b>「サービスの受益者」は他にいないか？ 顧客に届けるために他の手段はないか？</b></p>		
<p><b>コスト構造</b> どのようなコストが発生するか</p>		<p><b>収益の流れ</b> どのような仕組みで収益を生むか</p>		
<p><b>来年度以降の施策・事業として、ヌケモレ、効果が見込めるものか？ なぜか？ +αを狙うためには何を取り組めばよいか？</b></p>				

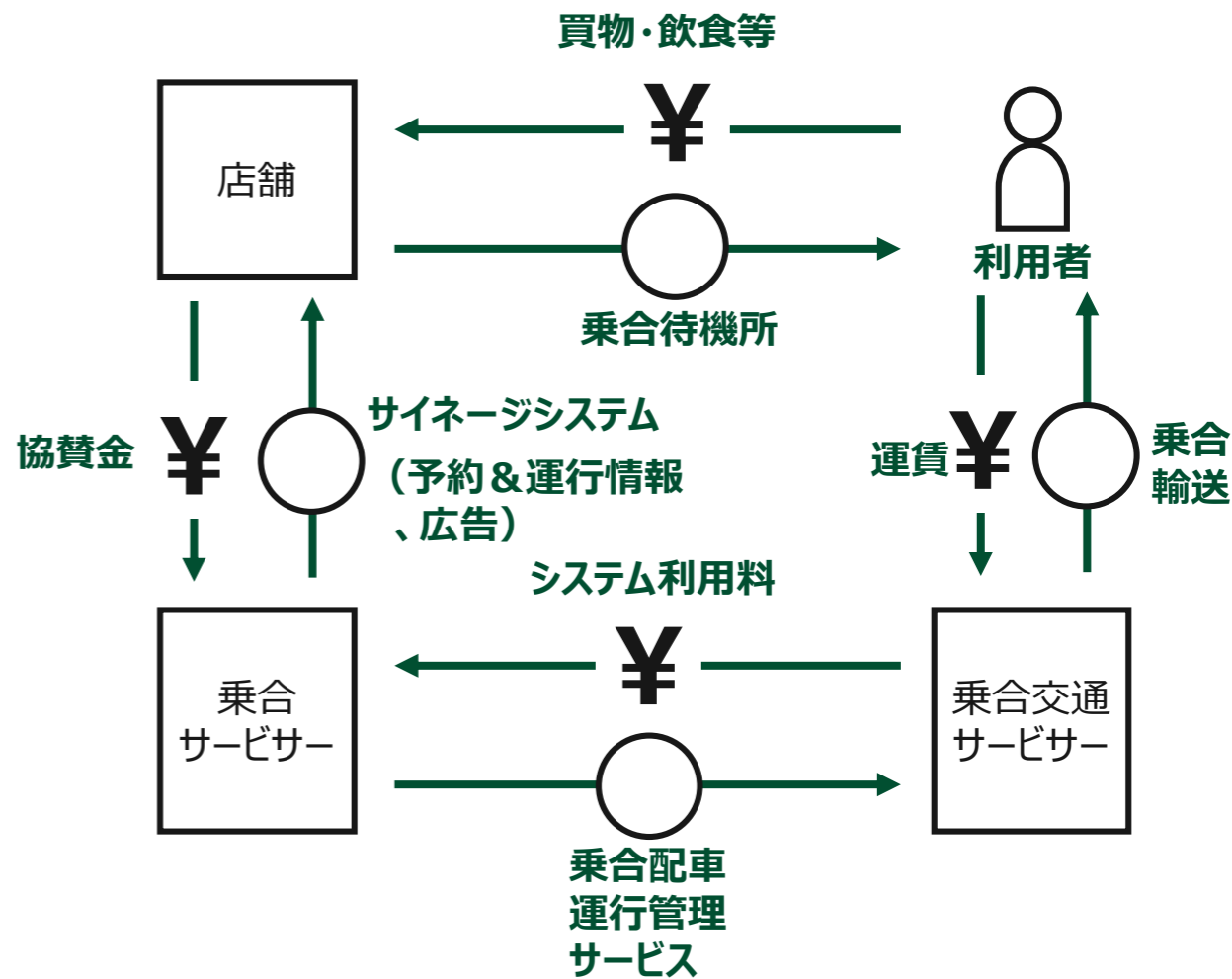
## ピクト図を活用したブラッシュアップ

ビジネスモデル考察ではピクト図を利用して  
異業種連携等による付加価値の追求などアイデアを膨らませてください

### 図で使用するパーツ



### 例) 乗合交通のビジネスモデル





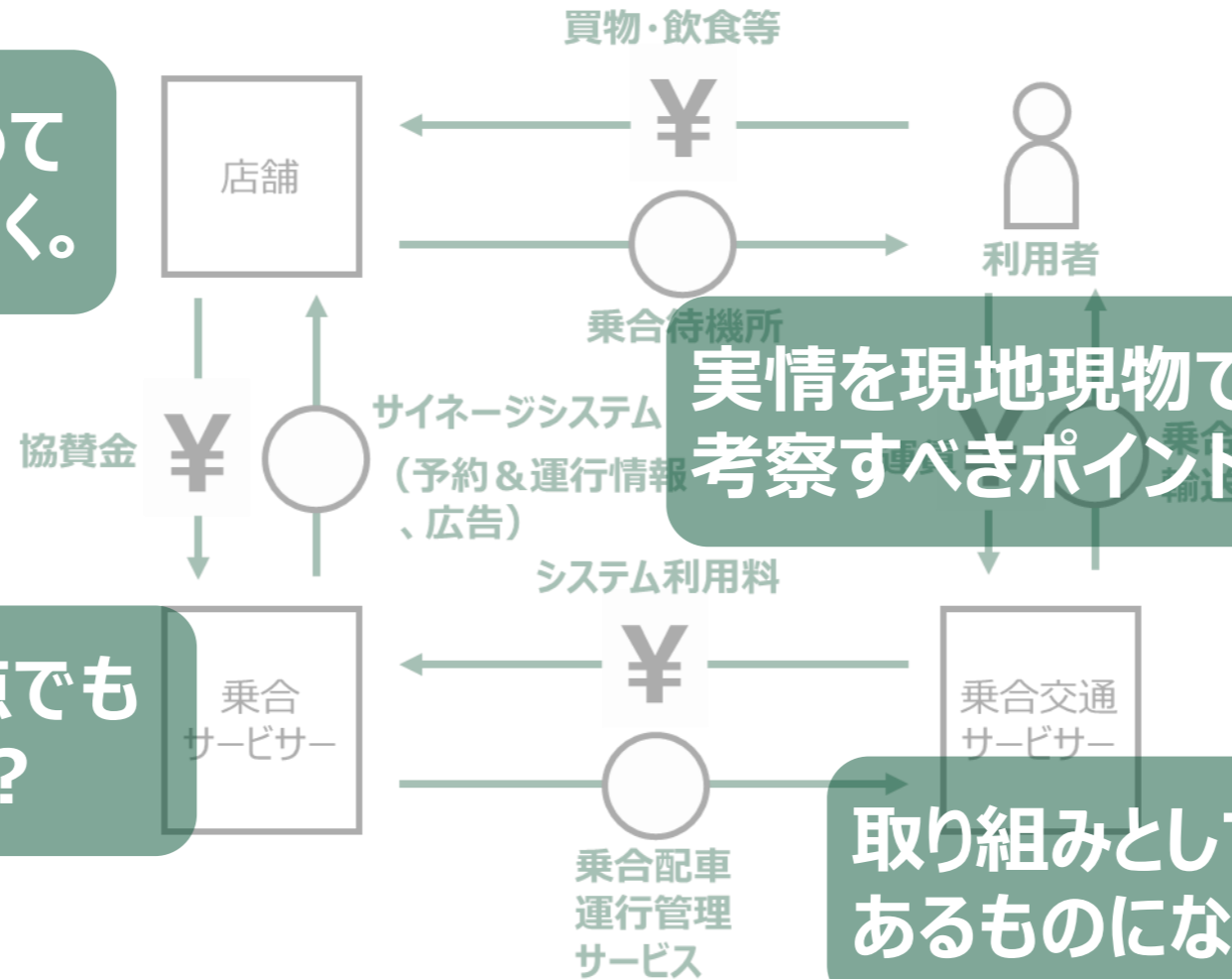
## ピクト図を活用したブラッシュアップ

# ピクト図を使った考察のポイント

例) 乗合交通のビジネスモデル

妄想から始めて  
具体化していく。

三方良しの視点でも  
成立しているか？



実情を現地現物で確認して  
考察すべきポイントはどこ？

取り組みとして実行性・実効性が  
あるものになっているか？